



鯉沢中部小学校だより せおと

一面の雪
2013. 1. 15撮影

平成25年1月25日 No.9 発行者 校長 岡崎紀子



明けましておめでとうございます

日本漢字能力検定協会（京都市）が毎年公募しています平成24年の世相を表す漢字は「金」でした。ロンドン五輪の金メダルや山中伸弥さんのノーベル賞受賞などの金字塔が打ち立てられ、日本列島で金環日食が観測されたことなどが理由とされました。年末に和紙に大筆で豪快に揮毫（きごう）した清水寺の森清範貫主は「今年の『絆』に光を当て、希望を持って頑張ろうとする日本人の気概を感じた」と話したそうです。

さて、辰年の平成24年は、ロンドン五輪が開催され、多くの種目で日本選手が大活躍し、私たちに元気と感動を与えてくれました。平成25年は巳年です。「巳」の原字はお母さんの子宮が胎児を包むさまを表し、草木の生長が極限に達して次の生命がつくられ始める時期という意味があるそうです。皆様にとりましても本校にとりましても「新たな挑戦」「新たな創造」の年となりますよう願っております。

本年も『豊かな心で、自ら学び・活動できる子ども』の育成を目指し、人・自然・ものとのふれあいを重視した教育活動を創造し、児童一人一人が主役となっていきいきと活躍できるように努めて参ります。子どもたちのために、本年も引き続いて、地域の皆様、保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

地域 保護者・地域は応援団

かじかざわちゅうぶしょうがっこう
鯉沢中部小学校

小学校時代には **競争ではなく**
協力と責任を学んでほしいのです

地域への支援体制が充実しています

新入生・転入生 募集中です

一人ひとりを大切にします
一人ひとりが主役になれます
一人ひとりに力がつきます

H24年10月 発行責任者 富士川中部区活性化プロジェクト会議代表 依田礼治

<お知らせ>

本年度も

「CHUBU-CUP
チャレンジラン
キング大会」を
3月3日（日）
午前9時30分
から行います。
町内外からの参
加者にもこのチ
ラシを配布しま
す。



中部区活性化プロジェクト会議 がんばっています



9月2日に「中部区の活性化を考える集い」が区民67人の出席で開催されました。小池小室区長の基調講演の後、中部区活性化に向けての意見交換がなされました。そして、9月20日には、依田礼治区長を代表とする「中部区活性化プロジェクト会議」が発足し、12月12日までに5回の会議が行われました。11月27日には、志村町長に次のような支援要請を行いました。

- | | |
|--|---|
| 1 暮らしやすい環境整備に向けた支援について
(1)国道52号鬼島地内への歩道の整備
(2)光ケーブルの整備
(3)鹿島落合ふれあい交流トンネルの整備促進 | 2 住む場所の確保に向けた支援について
(1)中部住宅の建て替え整備
(2)空き家バンクの創設 |
| 3 子育て支援環境の充実に向けた支援について
(1)中部保育所の有効活用
(2)中部小学校の存続 | 4 その他
(1)婚活イベントの取り組み |



また、中部小アピールチラシを1万部作成し、1月13日の新聞の折り込みチラシとして4800部を富士川町内に届けました。また、1月17日から5日間にわたり、依田区長・正副組長や当会員が町内の保育所の保護者に手渡しでこのチラシを届けました。他にも町内外の公共施設や個人的なつながりで配布して下さっています。必要な方は依田区長さんに連絡をお願いします。

➡ 1月25日現在、平成25年度の中部小児童は3年生が1人と6年生が4人だけです。チラシにもありますように、入学児童、転入児童の確保に向けて皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

第二保育所での活動

保育所ではお迎えの時間に、左のようなチラシを渡しました。

「13日の新聞に入っていましたよ。」

「がんばってください。」

と、声をかけてくださった方もいたそうです。寒い中、ありがとうございました。



スキー教室

一月十八日(金)快晴! ゲレンデは、マイナス十度以下でしたが、甲斐駒ヶ岳や北岳がきれいに見える最高の日でした。

子どもたちはこの日をとても楽しみにしていました。昨年度はインフルエンザが流行していたので、欠席者がいたのですが、

今年度は全員元気でした。バスは二十人乗りながら座席が広くゆったり座れて、富士見高原スキー場までの道中は六年生が企画・運営した楽しいレクレーションもあって、車酔いになる児童もなく楽しく過ごせました。

予定していたスキー場インストラクター一名にもう一名ついてくれたので、六年生

は井上先生が、二・五年生はインストラクター二名が学年別に教えてくれるという、優遇された講習になりました。当然、五・六年生はスキー場のてっぺんから難なく滑って来られるようになりましたし、二年生も急斜面の中腹から、講師の先生とジャンケンしたりしながらニコニコ滑り降りていました。



スポーツ講演会

1月19日(土)のスポーツ講演会では、1976年モントリオールオリンピック女子バレーボール金メダリストの池田広美さん(旧姓矢野)をお迎えして、講演とバレーボール教室を開催しました。池田さんは、文部科学省と日本体育協会が主催するトップアスリート派遣指導事業で北海道や滋賀、新潟の学校にも行って指導をしているそうです。



池田さんは、増穂中学校時代の部活動はコーラス部でしたが、増穂商業高校入学式当日にバレーボール監督に170cmの長身を見込まれて勧誘を受けました。家は農家でしたので、農繁期には手伝いができずバレーボール活動に反対されたこともありましたが、家族の協力もありバレーボールを続けることができました。インターハイは3年連続出場して、大活躍し、日本リーグの日立武蔵(当時)に入団しました。そして、21歳の時にモントリオールオリンピックに出場しました。

きびしい練習の中で、相手のために何ができるかをいつも考え、「人への感謝」ということを学んだそうです。アタックを成功させるためには、アタッカー一人の力だけではできません。チームメイト・監督・応援・・・多くの人々の支えがあるお陰で成功することができるので、人に役立つために何ができるかいつも考えていたと話していました。



講演の後のバレーボール教室では、オーバーパスやアンダーパスの練習をし、子どもチームと大人チームに分かれて試合をしました。9対15で子どもチームが負けたものの、再試合を要求するほど盛り上がりました。ご協力ありがとうございました。

